

ぼく 木 たく 鐸

編集・発行
はな. 居宅介
護支援事業所

人生を道に置き換え表現することがあります。徳川家康は「人の一生は重荷物負って遠き道を行くがごとし」と言っているように、道でも、特に人生を上り坂、下り坂の道にたとえるのを好むようです。これを耳にして、なるほどと思う人、何を言っているの分からない人、何も感じてない人、いや、感じていても、うまく表現出来ない人がいますが、人生と道はじっくりいくようです。話は少しズレますが、マラソン観戦が好きな人がいますが、もちろん、競技ですので順位が発生するわけで、優勝者は周りから称えられ、喜びに浸り、頑張ってきて良かったとインタビューに応じられます。観戦者も感動します。優勝者が挫折を味わい、困難を乗り越えてきた数が多いほど感動します。

思うに、観戦者は無意識のうちに、長い道のり、行程と優勝者を自分の人生と重ね合わせながら観戦しているのかもしれませんが。テレビ中継で時折画面が変わり、追走している集団、或いはハプニングに巻き込まれた選手にスポットがあたります。観戦者は、追走グループ、ハプニングに見舞われた選手にエールを送りますが心はトップ選手です（説明略）。再び中継が先頭選手のアップが映し出されると、観戦者は、再びトップ選手に自分を投影し応援します。

人は下り坂より上り坂をがりの人生は目的があり、しょう。それに比べ下り坂いかにも人生の終末、絶望があるのでしょ。

私ごとになりますが、人せて頂くと、どうしても人

てしまい、それぞれの人生があると言いながらも、その人の人生を比較して、その瞬間「はっと」して自己嫌悪に陥る事があります。というのも、比較対象があれば、ある程、どうしても、人を比較してしまいます。比較するのは仕方ないにしても、そこからが問題で、幸せか、不幸かの価値基準を自分の価値基準に照らし合わせ、その人の価値を決めてしまう傾向があるからです。特に悲惨であろうと思われる人の最期の1コマだけを見た時に痛感させられます。もちろん、仕事として割り切ってしまうえば、それは、それで問題ないことなのでしょうが？。

私も、それなりに年齢になり、私個人のこだわりとして、これからは、関わって行く人に対しては、その人の生き様を学ばせてもらい、私自身の生き方を模索して、上り坂、下り坂にたとえても良いのですが、私の人生を良い意味での「まさか」に方向転換したいものであります。これからの人の【出会い】を「出愛」に変更しようと思います。あなた（はな. さん）が「出愛に」路線へ変更？まさか？。

私の仕事地域が、上笠（かさ）、下笠（かさ）が地域に含まれています。地域の繁栄も人生の坂道に例える事ができます。

こんな事はあって困るのですが、我が仕事場の地域の地名に「さか」が逆になっても、この地域が奈落の底に「まっさかさま」なんてならないように協力し愛い頑張りたいと思います？

はな. さんが協力し愛い・・・まさか？。

ちなみに、はな. の「。」は種のイメージなんです、地域をみなさんの力を借りて花を咲かせましょう。という願いが込められているのです。

法務局に事業申請時に「。」種のイラストを使えないか？と尋ねると「法務局の人は天を仰がれました」「感動されたのかな？」

さて、今回は、映画、書籍雑感お休みさせていただきます。

まさか、休むとは

念をおしますが、「まさか」は善なる、良き「まさか」を目指してますよ。宜しく願います。

人は人生を坂道にたとえますが

上り坂・下り坂

あなたは、私は、地域は？

好みます。右肩目標があるからでは、右肩下がりで、を想像させるもの

と関わる仕事をさの生き方を比較し